

図書館だより

目次

究極的な大学図書館の地域開放	—田中 功	1
日本女子大学叢書の紹介		
中畠邦・杉森長子編		
『20世紀における女性の平和運動』	—後藤 祥子	2
日本女子大学学寮100年研究会編		
『女子高等教育における学寮』	—青木 生子	3
図書館のなかにあるもの	—位寄かのこ	4
大学図書館でなにをしようか	—香野 由希	4
展示「春です！旅しませんか？—図書館で旅の魅力を まるかじり—」	—中澤 恵子	5
2008年度「学生が読みたい本」を実施して		6
ご入学おめでとうございます 日本女子大学図書館です		
	—吉原三紀子	8



成瀬記念館分館

究極的な大学図書館の地域開放

田中 功

近年、日本の大学図書館では地域開放の在り方が模索されている。大学図書館の開放は1960年代頃よりアメリカを中心に大きな動きが始まった。それ以後、大学図書館には多様な人々が入館するようになる。カリフォルニア大学バークレー校の図書館は、日本の国会図書館に匹敵する蔵書を持ち、図書館サービスの充実さにおいても世界的に有名である。この図書館も早い時期から一般市民に開放されてきた。それが思わぬ社会現象を生むことになる。素晴らしい図書館が近くにあるということで、この地域に移転してくる人が増えてきたことである。ライターやジャーナリスト、作家などをはじめあらゆる人が図書館を目的に引越して来るようになったという。

アメリカにおける大学図書館の開放は、州の予算が費やされている以上市民の利用を拒むことはできないといった受動的な考え方からだけでなく、大学と市民との友好関係を深め、それが市民による大学サポートの向上に役立つとみなされる。さらに学外利用者がいつかは学内利用者になるかもしれないという期待や寄付を募るのに良いPRであることなど積極的な考え方も根強い。そのため90%以上の大学が図書館の開放を実施している。

最近、この開放がまったく予期せぬ図書館を誕生させる状況をもたらした話題になった。2003年8月にカリフォルニア州のサンノゼ市とサンノゼ州立大学が共同で運営する図書館をつくったのである。開放を超えた画期的な公共図書館と大学図書館の統合である。それによって蔵書数が150万冊という巨大な図書館に成長した。新図書館は大学キャンパスの一隅に建設され、街側と大学側の両方に入りが設けられた。1階から4階が公共図書館エリア、5階から8階が大学図書館エリアではあるが、大学と公共図書館の資料が1つの建物内で自由に利用できるようになった。また図書館カードがあれば市民、学生とも同じサービスを受けることもできる。新図書館の利用率は以前の2館の合計より70%増、1人あたりの貸出し数も倍以上に増えた。また利用者アンケートでは91%が「非常に優れたサービス」と評価し、さらに2004年には全米のLibrary of the year（年間最優秀図書館）に輝いた。この成功はまさに究極的な開放によるものといえよう。

日本でも図書館の開放を実施している大学が少なくない。しかし歴史が浅く問題点も指摘される。利用者は開放が当然の権利だと誤解し過度の要求をする、学生よりいち早く新着図書を借りてしまう、テスト期の高校生が閲覧スペースを占領する、不審者の入館があるなどである。図書館は本来利用者とともに築き上げていくものであり、より快適な図書館に成長させるには、図書館と利用者双方の努力や合意がなければならないとされる。この精神は図書館の開放に対しても決して例外ではない。

(図書館長・日本文学科教授)

中畠邦・杉森長子編

『20世紀における女性の平和運動
—婦人国際平和自由連盟と日本の女性—』（日本女子大学叢書1）

後藤 祥子

日本女子大学には平和教育・平和運動の長い歴史がある。一例をあげれば創立者の成瀬仁蔵は、第一次世界大戦に異議申し立てをしたインドの詩聖タゴールをたびたび学園や夏期寮に招いて講演会を開き、タゴールに感動した高良トミが通訳として全国行脚に随行した。また第二次大戦後の日米講和条約締結前夜に、平塚らいてう、上代タノ（当時まだ学長職にはなかった）が、植村環や野上弥生子、ガントレット恒子らとともに、「非武装国日本女性の講和問題についての希望項目」という文書を帰米直前のダレス國務省顧問に提出した歴史もある。その後、上代タノと平塚らいてうは、核廃絶を訴えた平和七人委員会に湯川秀樹博士らとともに参加したことはよく知られている。

上代たちの活動の基盤には、成瀬が生前、関係を作っておいた国際的な女性平和運動があり、婦人国際平和自由連盟（WILPFと略称する）その団体の日本支部を今も学内に置いている。本学の総合研究所は近年、叢書の刊行に踏み切ったが、その第一冊目が『20世紀における女性の平和運動』であり、「婦人国際平和自由連盟と日本の女性」と副題するものであったことは、平和運動が教育理念の背骨を成すものとして理解されていることの証と言えよう。

本書には、1915年にオランダのハーグで開かれた、第一次大戦に反対する国際女性会議の会長ジェーン・アダムス（1860-1935）から、当時参加者のなかったアジアに向けて送られた10通の書簡に対して、成瀬の返書が送られたこと、この返書がアメリカのスワスモア大学平和資料館に所蔵されていることの発見（当時本学教授で後にWILPF日本支部長になった杉森長子氏による）などが記されている。また第二次大戦に入っていく状況下での平和運動の紆余曲折を詳述する過程で、上代タノが記した1938年当時の『婦人平和協会会報』巻頭言の言い回しについて次のように触れている。

ここで注目すべきは上代が国策に協力することをまず強調した後、言葉を続けて、婦人平和協会（WILPF加盟前段階の名）の真の活動目的は国際親善であり、その初志は、世界平和であることを忘れてはならないと強調していることである。すなわち、「婦人平和協会の会員として、吾々の目下なすべきことは、……広く国際知識を涵養して、自重自在、……人類協力の大理想に邁進すべく希つて止まないのである。」上代のこの巧みな「技」は際立って見事である。この文章を一読しても、危険なことは何事も起こらないと、誰しも思うように書かれている。しかし、いわゆる同志であれば、そこに通ずる何かを見出せる文章である。これは、それほどに命がけの発言であり、用心には用心を心がけること、発言は心せねばならないこと、そのようにしなければ、戦時下において平和運動を志すことは到底出来ないということを、同時代を生きる同志に悟らせるとともに、後世の人々にも暗示しているものと理解できよう。

こうした上代の揺るがない信念は、軍需工場へ勤労奉仕に行った女子学生の休憩時間に、英語教育を施していたという逸話にも窺われる。上代は、第二次大戦後いち早く婦人国際平和自由連盟（WILPF）の国際大会に赴き、最初の日本支部報告を行っている。同会と本学との強い関係は現在も続き、2007年10月には、スイス・ジュネーブの本部から来日した若き事務局長スナイダーさんが、附属校での英語による懇話会、大学での講義や討論と密度の濃い時間を贈り物にしてくれた。

後で知ったことだが、スナイダーさんが成瀬記念館の「日本女子大学と国際交流」展を見たとき、成瀬が19世紀末に留学したアメリカのアンドーヴァー神学校とクラーク大学についての展示を見て「クラーク大学は私も学んだ大学です」と言われたそうである。百年近い時を隔てて、奇しくも共に同じ大学で学んだ経験があることが分かり、偶然といえばそれまでだが、そこに平和を願う一筋の糸の存在を感じる。本書の刊行をきっかけに、本学の平和を大切にす伝統を見直し、さらに発展させたいものである。

(学長・名誉教授)

2006年5月発行 ドメス出版 301頁

*目白・西生田所蔵 請求記号319.8-Nij



日本女子大学学寮100年研究会編

『女子高等教育における学寮

—日本女子大学学寮の100年』(日本女子大学叢書4)

青木 生子

現役から大分遠のいているものの、私は新聞、雑誌などに教育や大学関係の記事が載ると、つい目が向いてしまう。今やグローバル化の時代、社会、経済の危機、急変の最中に、大学の存在も例外ではなく、競ってさまざまな変貌を遂げつつある。折しも、創立百周年を2001年に迎え送った日本女子大学が、開学時に建てた学寮の今日に至る百年を記念して『女子高等教育における学寮』を刊行した。今後の学寮のあり方を考えるための基礎研究を目的として、学内の総合研究所のプロジェクトチーム(代表小谷部育子日本女子大教授)で三年間進めてきた成果をもとにしている。単なる厚生寮とは違い、創立者の教育理念の核をなす教育寮として一貫している点、あまり類例がないとみるだけに、貴重な文献といわざるをえない。大学の教育ポリシーが改めて問われる現在、女子大関係者のみならず、広く教育界に資するに時宜をえた本書である。

はじめに、本学の学寮を語るに欠かせない、創立者成瀬仁蔵の女子高等教育理念(「人間として」「婦人として」「国民として」と、時代背景につき述べ、成瀬の寮構想に及ぶ。寮はあくまで人間教育を前提にした、家庭と社会との中間にある教育の場として位置づけた。運営には、個々人が相互に助け合う自治生活を構成することが願われている。

次に、成瀬の理想とした寮構想の具現化およびその歴史が、当時の『家庭週報』(女子大同窓会桜楓会の機関紙)ほか豊富な資料をもとに詳細に明示、考察されている。創立当初、構内に建てられた三棟八寮の各寮は、一名の寮監、二十名の寮生、一名の調理補助員からなる一家族を形成し、近代国家の基礎となる新しい家庭像を、寮生活において体験させるのが主旨であった。また、校長自宅が寮舎に接近して建てられ、成瀬自ら昼となく夜となく各寮を巡り、学生との接触を密にした意義は大きい。

教育寮としてのさまざまな特色を、紙数の関係上紹介できないが、私としては次の点などを特記したい。一つは、寮生は毎朝晩に瞑想時間をもったことである。特殊な儀式を課するのではなく、瞑想によって精神を集中し、人間としていかに生きるかの向上心を養う大切さを、成瀬は実践倫理の講義で全学生に説き、宗派にとらわれない宗教(精神)教育を校風としてつくることをめざしたのである。そして教育寮として本学に欠かせない軽井沢の夏季寮(三泉寮)におけるタゴールの瞑想指導、成瀬との精神的交流についても、項を設けて記述している。他大学の夏季寮や学寮とは異なる特色を持っているといえよう。もう一つは、寮舎の生活必需品を共同購入するための寮舎共同購買会が設けられていたことである。これは良品を安価にて購入、手数も省くため成瀬と寮監の研究で誕生したよし、女子教育機関最初の消費組合となった。購買会は常に研究、改良を行い、家政学部以外の寮生にも、生活経験面の教育に大いに役立った。

残念ながら寮生活の体験を持たなかった私でも、昭和前期に本学で学んだ頃には、クラスに寮生が多く、寮の様様がつぶさに伝わり、校風の指導的役割を果たしていた。

開学時からの伝統も時代とともに、寮生活は木造和風から洋風へ、共同から個室へ、さらには、六十年安保闘争の時代を背景に1969年、寮監制が廃止、新体制の学寮委員会が発足した。1990年には四年制から二年制寮となり、学寮アドバイザー制を実施した。また、西生田に附属高校と大学の共同寮を作った。当時学長の任にあった私は、全学教授会で寮問題を、人間社会学部や理学部の新設と同時平行で熱い議論を交したことを思い起こす。

全寮制に近い昔に比べ、現在寮生は全学生の5%ほどしかないが、本学独自の教育実践場たる意義はなお健在であると言いたい。それは今回各面から入念に行われたアンケート調査からもうかがえることである。本学と関係ある日米各三女子大の学寮報告に次いで、本学園の将来計画を担う関係者による「学寮の課題と展望」のシンポジウムを以って、本書はしめくくられている。

一世紀にわたる寮の歴史を知ることは、未来に責任をもつことである。共学大学の模倣や社会ニーズの後追いはしないほうがよい、とやはり感じさせられた。

(元学長・名誉教授)

2007年11月発行 ドメス出版 281頁 *目白・西生田所蔵 請求記号377.28-Nih

図書館のなかにあるもの

位寄かのこ

おそらく多くの皆さんと同じように、私も入学当初、大学図書館は近寄り難そうという印象を抱いていました。それは私の中に長く留まり、実は一年次のときは一度も図書館を利用したことはありませんでした。レポートはパソコンで書出し、その調べものもインターネットの方が便利だろう…と考えていたのです。しかしその考えは変わりました。授業後、これから図書館でレポートをやるからと言って別れた友人の言葉が何となく頭に残り、その後の予定も特になかった私は興味本位で図書館のゲートを通りました。

最初に圧倒されたのは、何よりも書架にずらりと並んでいる本でした。多くの専門書からは堅苦しさよりも充実度がうかがえましたし、また、自習・資料閲覧席が多いことも驚きでした。個人席にはライトが備え付けられ、その下で資料を広げ勉強している学生の姿がとても格好良くみえたのを覚えています。

この衝撃の日以来、私は頻繁に大学図書館に足を運ぶようになりました。例えば微生物学実験のレポートを書く際、その資料は生物学、食品学、加工学という幅広い分野の書架から探すことができます。館内の検索用コンピュータは、私に学問の幅広さと奥深さも教えてくれました。見つけた資料を思い切り広げて課題を仕上げたいときは、広い机に陣取って作業を進めますし、集中して勉強したいときには隅の個人席をよく利用します。また、自分の専門以外でも面白そうな本を見つけるようになりました。区立や市立図書館では予約がいっぱいのお話本が平然と並んでいたりするので、授業の空き時間にふらっと立ち寄っただけでも十分楽しめます。

まずは入り口のゲートを通して見て下さい。何か新しく面白いものが見つかると思います。

(食物学科・3年次学生)



大学図書館でなにをしようか

香野 由希

図書館はあらゆる本が集められた空間。現実と切り離された一種の別世界。とりわけ大学図書館は学校とは少し異なる“大学”内にあり、教授や学生が多く利用する。そのために普段は娯楽としてはあまり手にとらないような専門的書物が多く取り揃えられており、その“別世界”の雰囲気により強く感じる。大学は学部学科の枠組みはあっても、その中にいる教授や学生たちの見ているものや感じているもの考えているものは多種多様であり、人間は本当に十人十色なのだと思える。そんな中で、多様な考えをさらに深めるために利用される大学図書館は私にとってはちょっとしたトリップできる場所となっている。

私が大学図書館を別世界と形容するのは、はじめて西生田と目白の図書館を訪れたときにまず「古い・・・」と感じてしまったから。それは建物の古さではなく建物に収められた大量の書物がかもし出す古さだ。同じ図書館でも、小中高の学校図書館や市民図書館には書店にも並ぶ新しい本を手軽に楽しむような開けた空気がある。大学図書館にはそれを感じない。しかし、代わりにどこでも味わえない「古さ」がある。古さを発するのは、変わることのない「過去」を保ち続けたものだけだ。

過去はその本が作られた時代から今までの時間と図書館で何人もの人々に読まれた経験で蓄積される。図書館の本を手にとれば、その内容だけでなく過去を含んだ古さも感じられるかもしれない。古さは湿った陰気なものではなく、新しさを生むための原動力となり得る力をもつのだ。それは日常生活だけではきっと得られないだろう。

私は大学図書館に「古さ」を感じたが、図書館に何を思うかはおそらくそれぞれ異なるだろうが、どんな別世界をのぞけるか試してみてもいいかもしれない。

(現代社会学科・2年次学生)

—図書館（目白）玄関ホール展示—

春です！旅しませんか？ —図書館で旅の魅力をまるかじり—

春のイメージとはどのようなものであろうか？

春は旅立ちの季節であり、また新たなる出発や出会いの季節でもある。そして、旅行に最適の季節だ。穏やかに暖かく連休もある！そこで、今回のテーマは「旅」にした。

旅というテーマを、多角的視点から捉えて展示したいと考え、下記のとおり8つのイメージで構成した。ガイドブック（海外編）（国内編）、雑誌「旅」のコーナーもある。また、図書館（目白）全フロアの資料を案内できるように心がけた。



旅への誘い：旅心をくすぐるシリーズもの、彼の地に思いを馳せるような魅力的な図書を紹介。

世界遺産を堪能する：オーバーサイズで堪能できる『世界遺産』、内容により参考図書と一般図書に分かれている『世界遺産シリーズ』を紹介。美しさにため息が出ることもしばしばである。

マルコ＝ポーロの旅：大変見応えのある『全訳マルコ・ポーロ東方見聞録』とともに、上代平和文庫の『マルコ＝ポーロ』を紹介。

歴史上の旅に思いを馳せる—海外編—：世界史上名高い大航海時代に生み出された『17・18世紀大旅行記叢書』、『ガリヴァー旅行記』も収録されている『ユートピア旅行記叢書』を紹介。

歴史上の旅に思いを馳せる—日本編—：幕末から明治に日本を訪れた西洋人達の貴重な記録を収録した『日本見聞記シリーズ』とともに、日本史上の宿を研究した洋書『Japanese inn』とその訳書を紹介。

紀行文の魅力：海外の魅力的な紀行文が集められている『海外旅行選書』、『アンデルセン紀行・文学全集』のうち紀行文を収録した3冊、ロレンスの紀行文は全てを1冊に収録した『ロレンス紀行全集』とともにタイトル別出版された図書も一部紹介。作家の醸し出す美しい文章は写真や絵に勝るとも劣らず旅心をくすぐる。

宇宙旅行へ！：『クイズ宇宙旅行』や日本人宇宙飛行士達の著書を紹介。宇宙旅行への想像力をかきたてる。

シルクロードの旅：NHKで放映された内容をまとめた『新シルクロードの旅』、『中国世界遺産の旅』、玄奘法師を通してシルクロードの旅を解説する『図説三蔵法師の道』、彼の著書『大唐西域記』を紹介。『中国世界遺産の旅』で展示しているページは、私が実際に敦煌を訪れた際、もっとも美しいと感動した壁画である。



うらかな春の光の中、お時間のある時に暫しお立ち寄りいただけたらと願う。

(館員・閲覧係 中澤恵子)

*** 図書館（西生田）玄関ホール展示のお知らせ ***

○「21世紀のノーベル文学賞受賞者著作」 期間：1月10日（土）～2月18日（水）実施済み

○「西生田の森へようこそ！」 期間：3月23日（月）～5月30日（土）

西生田キャンパスでみられる動植物や、本学が行っている保全・啓蒙活動等についての展示を行います。

2008年度「学生が読みたい本」を実施して

大学図書館は学習や研究に必要な資料を提供し、その活動を支援する機関です。選書は司書が先生方のご意見を取り入れながら、本学の学科構成・研究動向をふまえ、蔵書構成に偏りのないように行っています。そのほか、利用者が研究上必要とする資料の購入希望も参考デスクにて随時受け付けています。

ところで以前から「本来の目的以外に、気軽に楽しめる本も大学図書館に置いてもらえないだろうか」という声が数多く寄せられていました。そこで、2007年度にその要望に応える新しい試みとして、自身の研究等に関連のない図書のリクエストを「学生が読みたい本」と称し、期間を設け募集しました。この企画が好評だったため、今年度も引き続き行うことにいたしました。

今年は前期：2008年5月12-24日、後期：2008年10月21-31日と2回行いました。応募件数は前期が目白52件、西生田29件。後期が目白83件、西生田41件でした。件数からも反響が大きくなってきたことが窺え、大変うれしく思っています。図書選定委員会で検討の結果、購入した図書は以下の通りです。目白・西生田の「学生が読みたい本」コーナーに備えましたので、是非ご利用ください。

＜目白図書館で購入した図書＞

- | | | |
|--|---|---|
| 青木淳 Jun Aoki Complete works 1・2 (INAX 出版) | 首をはねろ メルヘンの中の暴力 新版 (C.H. マレ みすず書房) | ゼロ年代の想像力(宇野常寛 早川書房) 大書源 全4巻 (二玄社) |
| あのひととここだけのおしゃべり(よしながふみ 太田出版) | 経絡リンパマッサージ(渡辺佳子 高橋書店) | 第四の手 (J. アーヴィング 新潮社) 竹中平蔵, 中国で日本経済を語る(大和書房) |
| イギリスのティーハウス(小関由美 主婦の友社) | 公園緑地のマネジメント(中橋文夫 学芸出版社) | 地域再生システム論 (東京大学出版会) 中心市街地の創造力(宗田好史 学芸出版社) |
| 池袋ウエストゲートパーク1~8, 外伝 (石田衣良 文藝春秋) | 恋の技法 (オウディウス 平凡社) | ティファニーで朝食を (T. カポーティ 講談社) |
| いつかパラソルの下で(森絵都 角川書店) | 恋する天才科学者(内田麻理香 講談社) | 天地人 上・下 (火坂雅志 日本放送出版協会) |
| いのちの教育の理論と実践(近藤卓 金子書房) | 言葉の虫めがね (俵万智 角川書店) | 東京R不動産 (アスペクト) |
| 巖のちから (阿木津英 短歌研究社) | 効率が10倍アップする新知的生産術 (勝間和代 ダイアモンド社) | 図書館戦争(有川浩 メディアワークス) |
| A型自分の説明書 (JamaisJamais 文芸社) | 実践的寝技道 (高阪剛 新紀元社) | 図書館戦争 別冊1~2 (有川浩 メディアワークス) |
| 江戸川乱歩全集 全30巻 (光文社) | シャイニング 上・下(S. キング 文芸春秋) | 図書館革命(有川浩 メディアワークス) |
| エドワード・ゴッリー絵本 おぞましい二人 (河出書房新社) | しゃばけ (畠中恵 新潮社) | 図書館内乱(有川浩 メディアワークス) |
| エドワード・ゴッリー絵本 雑多なアルファベット (河出書房新社) | Shuffled 古谷誠章の建築ノート (TOTO 出版) | 図書館危機(有川浩 メディアワークス) |
| エドワード・ゴッリー絵本 優雅に叱責する自転車 (河出書房新社) | 修道院の薬草箱(フレグランスジャーナル社) | ドリームバスター 1~4 (宮部みゆき 徳間書店) |
| おいしいコーヒーのいれ方 1~8, Secondseason1-2 (村山由佳 集英社) | 食堂かたつむり (小川糸 ポプラ社) | 7つの習慣ティーンズ [1]~2 (S. コヴィー キングベアー出版) |
| 荻須高德画文集 (求龍堂) | 情報は1冊のノートにまとめたなさい(奥田宣之 ナナ・コーポレート・コミュニケーション) | 24人のピリー・ミリガン 上・下 (D. キイス 早川書房) |
| 大人は判ってくれない(野火ノビタ 日本評論社) | 新現代歌人叢書61 青葉森 (阿木津英 短歌新聞社) | 日本変形菌類図鑑 (平凡社) |
| カンブリヤ宮殿(村上龍 日本経済新聞出版社) | 新日, K-1, Pride タブー大全 (宝島社) | 鼠と竜のゲーム (C. スミス 早川書房) |
| 荷風と私の銀座百年(永井永光 白水社) | 新撰組顔末記 新装版(永倉新八 新人物往来社) | 粘菌 驚くべき生命力の謎(松本淳 誠文堂新光社) |
| 饗宴 改版 (プラトーン 新潮社) | 震度0 (横山秀夫 朝日新聞社出版) | のぼうの城 (和田竜 小学館) |
| 巨匠たちが夢みた建築 DVDビデオ (W. イェスパー ツイン) | スコットランド ミステリー&ファンタジーツアー (新紀元社) | Nobody knows (奈良美智 フォイロ) |
| キャリアー (S. キング 新潮社) | 生前追悼ターザン山本! (エンターブレイン) | 脳を生かす勉強法 (茂木健一郎 PHP 研究所) |
| | 世界の祝祭日とお菓子(プチグラパブリッシング) | 白鯨 (H. メルヴィル 講談社) |
| | | 長谷川伸全集 全16巻 (朝日新聞社) |

- バッテリー (あさのあつこ 教育画劇)
 バリー・トゥード最前線からの証言 (スタジオDNA)
 犯人に告ぐ 上・下 (雫井脩介 双葉社)
 B型自分の説明書 (Jamais-Jamais 文芸社)
 Hiroshi Hara Discrete city 全4巻 (原広司 TOTO 出版)
 不思議な少年 (M. トウエイン 岩波書店)
 不眠症 上・下 (S. キング 文藝春秋)
 Pride 大百科 (東方出版)
 フレグラントガーデン (広田セイ子 文化出版局)
 水の未来 (F. ピアス 日経BP社)
- 未亡人の一年 上・下 (J. アーヴィング 新潮社)
 無理なく続けられる年収10倍アップ勉強法 (勝間和代 ディスカヴァー・トゥエンティワン)
 モダンタイムス (伊坂光太郎 講談社)
 葉草魔女のナチュラルライフ (G. ビッケル 東京堂出版)
 夢をかなえるゾウ (水野敬也 飛鳥新社)
 八日目の蟬 (角田光代 中央公論新社)
 余命1ヶ月の花嫁 (マガジンハウス)
 ラブ・ファッションISTA (J. ダム ラングダムハウス講談社)
 料理人誕生 (M. ルールマン 集英社)
 論語と算盤 (渋沢栄一 国書刊行会)
- 倫敦千夜一夜 (P. ブッシュェル 原書房)
 倫敦路地裏犯科帳 (C. ヒバート 東洋書林)
 ロンドン, とっておきのティーブレイスへ (スチュワード麻子 河出書房新社)
 流星の絆 (東野圭吾 講談社)
 The most beautiful country towns of Provence (Thames & Hudson)
 The most beautiful villages of the Loire (Thames & Hudson)
 150 best house ideas (Collins Design)
 Picture perfect English villages (Thames & Hudson)

〈西生田図書館で購入した図書〉

- I love you (祥伝社)
 異形の大陸中国 (桜井よし子 新潮社)
 一瞬で自分を変える法 (A. ロビンソン 三笠書房)
 有頂天家族 (森見登美彦 幻冬舎)
 海色の午後 (唯川恵 集英社)
 絵のない絵本 (アンデルセン 集英社)
 エンド・ゲーム (恩田陸 集英社)
 オーデュボンの祈り (伊坂幸太郎 新潮社)
 All you need is green (講談社)
 思いわずらうことなく愉しく生きよ (江國香織 光文社)
 カフカ田舎医者 (山本浩二 プチグラフィック)
 がらくた (江國香織 新潮社)
 妃は船を沈める (有栖川有栖 光文社)
 気づきの力 (柳田邦男 新潮社)
 クリムゾン・ルーム (高木敏光 サンマーク出版)
 経済ってそういうことだったのか会議 (日本経済新聞社)
 効率が10倍アップする新・知的生産術 (勝間和代 ダイアモンド社)
 黒笑小説 (東野圭吾 新潮社)
 5年3組リョウタ組 (石田衣良 角川書店)
 サヨナライツカ (辻仁成 幻冬舎)
 実存と人生 (カフカ 白水社)
 シー・ラブズ・ユー (小路幸也 集英社)
 週末のフール (伊坂幸太郎 集英社)
 重力ピエロ (伊坂幸太郎 新潮社)
 ショートソング (栞野浩一 集英社)
 新釈走れメロス (森見登美彦 祥伝社)
- スタンド・バイ・ミー (小路幸也 集英社)
 ゼロ年代の想像力 (宇野常寛 早川書房)
 だんだんあなたが遠くなる (唯川恵 新潮社)
 探偵ガリレオ (東野圭吾 文藝春秋)
 蒲公英草紙 (恩田陸 集英社)
 チルドレン (伊坂幸太郎 新潮社)
 ディック・ブルーナのデザイン (新潮社)
 デザインのデザイン (原研哉 いわなみ書店)
 トリツカレ男 (いしいしんじ 新潮社)
 ドリームバスター 1~4 (宮部みゆき 徳間書店)
 ナイトメア・アカデミー (T. ローリー 主婦の友社)
 流しのしたの骨 (江國香織 新潮社)
 バイオソフィア実験生活 (講談社)
 初恋素描帖 (豊島ミホ メディア・ファクトリー)
 光の帝国 (恩田陸 集英社)
 土方歳三の生涯 (菊地明 新人物往来社)
 ビジョンナリー・ピープル (英治出版)
 ビジョンナリカンパニー (日経BP出版)
 ヒトラーのデザイン (武田正一郎 ワールド・フォト・プレス)
 秘密 (東野圭吾 文藝春秋)
 秘密。私と私のあいだの十二話 (メディアファクトリー)
 火村英生に捧げる犯罪 (有栖川有栖 文藝春秋)
- 100万回の言い訳 (唯川恵 新潮社)
 フィッシュストーリー (伊坂幸太郎 新潮社)
 フミコのやわらかな指 (狐野扶実子 朝日新聞社)
 星新一ショートショート1001 1~3 (新潮社)
 ポーの話 (いしいしんじ 新潮社)
 夢をかなえるゾウ (水野敬也 飛鳥新社)
 夢は、紙に書くと現実になる! (H. A. クロウザー PHP 研究所)
 陽気なギャングが地球を回す (伊坂幸太郎 祥伝社)
 容疑者Xの献身 (東野圭吾 文藝春秋)
 予知夢 (東野圭吾 文藝春秋)
 ラッシュライフ (伊坂幸太郎 新潮社)
 Re-born はじまりの一步 (実業之日本社)
 流星の絆 (東野圭吾 講談社)
 瑠璃でもなく、玻璃でもなく (唯川恵 新潮社)
 レインツリーの国 (有川浩 新潮社)
 ロジカルシンキング (東洋経済新報社)
 Love songs (唯川恵ほか 幻冬舎)
 Kafka-handbuch in Zwei Banden 2 vols (H. Binder Kroner)
 Windmills of the gods (S. Sheldon Grand Central)

(図書館だより編集委員会)

＊ご入学おめでとうございます＊ 日本女子大学図書館です



いろいろな専門の本・雑誌があります

5冊1ヶ月借りられます

*大学院生20冊

落ち着いた空間で
自由に席を使って読めます

コピー機もあります

1枚10円 カラー1枚50円

*ノート、持ち込み資料は
複写できません

HPで蔵書検索できます

開館の日は変更することがあります

HPの開館カレンダーをチェックしてください

*館内で日程表も配布しています

利用カードが必要です *学生証を持ってカウンターへ

× 返却期限に遅れたら貸出できないペナルティがあります

日本女子大学図書館には

情報科学、哲学、心理学、宗教、歴史、地理、政治、法律、経済、社会学、社会福祉、教育、民俗学、数学、物理学、化学、生物学、医学、建築学、家政学、衣服、食品・料理、住居、育児、芸術・美術、スポーツ・体育、言語、文学… そのほかいろいろな分野の図書資料があります。

*目白・西生田図書館から取り寄せることもできます

＊ご利用をお待ちしています！＊

(館員・西生田図書館 吉原三紀子)

編集後記 日本女子大学叢書は、本学の総合研究所設立10周年を記念して刊行されることとなった叢書であり、本学固有の研究に限らず当該領域の研究の発展に寄与する対象に刊行助成がなされている。これから順次紹介していく予定だが、初回の筆を現学長、元学長が執ってください。卒業と入学の季節。新生はまずは気軽に大学図書館へ足を運んでいただきたい。卒業生も当館の利用が可能である、是非ご再訪を。巻頭写真は目白キャンパスの一郭にある成瀬記念館分館、婦人国際平和自由連盟日本支部はここにある。(中曽根)

日本女子大学図書館だより No.134 2009.3.5 ホームページ <http://www.lib.jwu.ac.jp/LP.html>

日本女子大学図書館発行 〒112-8681 東京都文京区目白台2丁目8番1号 ☎ (03) 5981-3195